

# イベントを共創的(inclusive) にする工夫 —— “物証” としてのポスターコレクション

梶谷真司

〈哲学×デザイン〉プロジェクトでは、当初からポスター作りにこだわってきた。

背景となる図柄や写真をゲストに用意してもらうこともあった。告知文も、ゲストと一緒に考える。本人に書いてもらったこともあるし、キーワードをいくつか出してもらって、それをもとに私がまず原案を作文し、ゲストと仕上げたものも多い。また告知文は、イベントの趣旨をできるだけ簡潔に印象的な言葉で表現するように心がけ、説明しすぎないようにした。時に、謎めいた文章にもなった。プログラムも書かない。開始時刻は書いても、終了時刻は書かない。

さらに、ゲストのプロフィールは書かない。肩書は、所属（会社や大学など）や社会的な身分（アーティスト、建築家など）を書くのが普通だが、それはしない。その代わり「自分を一言で表す肩書をつけてください」と頼んで、イベントのためだけに特別に決めてもらった（その結果所属や身分になっていることもある）。私の肩書も、それに応答するような形で、そのたびに考えてつけた。

参加者にとってはかなり“不親切な”やり方であるが、これはイベントそのものを〈インクルーシヴ＝共創的〉にするための工夫である。

告知文を一緒に作ったり、肩書を考えてもらったりするのは、私とゲストの共同作業である。また参加者は、お客さんではない。「参加」という形でイベントを共に創る存在である。そして問題は、「参加」とはどういうことか、あるいは、どういうふうに参加してもらうか、である。

一般には、イベント情報は、できるだけ詳しく丁寧に分かりやすく書く。ゲストについても、プロフィールをある程度は詳しく書き、どんな人なのか説明する。そうやってお客さんにイベントについて十分知ってもらったうえで来ていただく。それが主催者の当然の配慮だとされている。

だがそうすると、来る人は参加するというより、予告通りのことが起きるかどうかを確認するだけになるのではないのか。しかも、文字通り“お客さん”となり、目の前に差し出されたものをただ味わうだけの受動的な態度になる。そして「よかった」とか「イマイチだった」とか、“上から目線で”評価する。その裏返しで、イベントを主催するほうは、お客さんに来ていただく、見ていただくという“下から目線”の卑屈な態度になり、そして終わったあと聞くのだ——「ご満足いた

だけましたか?」

主催者と参加者は、もっと対等であっていい。一緒にイベント＝出来事を作る仲間であっていい。そのためにイベント情報は、極力シンプルにする。何となく分かるが、よく分からない。だから、「何だろう?」と来る前からあれこれ想像する。

ゲストのことも、プロフィールがないからよく分からない。知りたいなら、自分で調べればいい。気にならないなら、「どんな人だろう?」と期待する。

当日のプログラムが書かれていないから、具体的に何をするのか分からない。いつまでやるのかも分からない。だから参加者は来ると「今日は何をやるんですか?」とか「何時に終わるんですか?」と聞いてくる。それでちゃんと答えが返ってくるのかと言うと、そうでもない。当日になっても、何をするのか、いつまでやるのかきちんと決まっていない。来た人は、多少とも不安に思うかもしれない。

さらに、申し込みをしたのに受付がない。それどころか、開始30分くらい前になって、参加者が来はじめても、会場の設営ができていない。だから来た人は、机やイスを並べてくれと頼まれる(私が頼む)。イベントの後の現状復帰は、もちろん参加者にやってもらう。そしてその後は、懇親会に来たければ来る(参加率が高い!)

要するに参加者は、来る前から想像したり調べたり、期待したり不安に思ったり、能動的にコミットすることになる。そして会場に来ると、準備や片づけもする。プログラムが決まっていないので、最終的には、こちらと参加者が相談しながら進めていくことになる。

すると参加者であることを超えて、主催者に近くなる。だから、こちらが提供したものが参加者にご満足いただけたかどうか<sup>か</sup>が問題なのではなく、主催者にとっても参加者にとっても、どれくらい一緒にできたかが重要になる。つまり、イベントというのはみんなで共に創っていくもの<sup>もの</sup>だということを、その場で一緒に体験するのである。

だから私にとって、ポスター作りから始まり、イベントを実際に開催し終了するまでの全プロセスが、共創哲学(inclusive philosophy)の実践であり、理論のための実験なのである。

ポスターは、それを示す"物証"の一つなので、ここにコレクション(ポスター1～ポスター18)として掲載する。(なお、2020年4月以降のイベントは、コロナ禍のためオンライン開催となり、参加者と共創する部分が減ったため、ポスターは作っていない。)